

## 第2回金沢市立病院再整備基本構想検討委員会 議事録

1. 日時 令和5年9月19日(火) 19時00分～20時00分
2. 場所 金沢市立病院3階講堂
3. 内容 下記のとおり

### 次第3(1) アンケートの実施結果

事務局

【説明】

G委員

アンケート結果の説明に関して、委員の皆様からご意見、ご質問を承りたいと思う。

F委員

職員の働きやすさに繋がる駐車場や売店に関する意見が織り込まれていたのが今回のアンケートの良い点だと思った。駐車場に関しては、多くの台数を駐車できることは重要である一方で、車いすや杖を使用する方、介助を必要とする方がいることを考慮した、広さ・ゆとりのある駐車場であることや、駐車場から病院エントランスまでの動線・距離に関しても配慮した再整備計画を検討していただきたい。

G委員

駐車台数だけでなく、車いすや要介助者の車の乗降、車を降りてからの診察までの動線を踏まえた改善が重要であるという非常に建設的なご意見をいただいた。

事務局

障がい者に対する利便性については、金沢美術工芸大学と連携を取り、インクルーシブデザイン（高齢者、障がい者、外国人など、多様な人々をデザインプロセスの段階から巻き込むデザイン手法）の取組みを進めていく。

現在も駐車場からの動線にスロープを取り入れるバリアフリー動線を確保しており、新病院においても取り入れる必要があると考えている。

また、水回り等の設備についても、障がい者にとっても利用しやすい病院づくりを意識したデザインを取り入れた建物整備を考えている。

D委員

働きやすい職場とするために充実すべきものとして、「コンビニ」、「休憩スペース」を強調しているが、アンケート結果の3番目に挙げられている「カフェ」に関してもぜひ検討していただきたい。現在多くの病院でコンビニに加え、カフェを院内に導入している事例がある。これまで関わった病院においても、職員からのニーズは高く、病院整備の中で高い優先順位で進めた経験がある。実際に職

	員だけでなく、患者からも非常に好評を得ているため、是非、検討していただきたい。
G委員	<p>「カフェ」については、とある病院においても、病院の互助会で、カフェを運用し、売上を確保していることを聞いている。</p> <p>また導入に際しては、1日にどれくらいの外来患者、入院患者が利用してくれるかの試算も重要になってくると思う。</p> <p>コンビニを運用していくうえで、弁当や日用雑貨の充実を図るための相応のスペースと、弁当の廃棄問題などが発生しないよう、一定の利用者を見込めなければ難しい。</p> <p>現状、金沢市立病院の患者、職員の利用状況を鑑みてコンビニ導入の可能性はどの程度あるのか。</p>
事務局	現時点の当院の状況として、職員からコンビニがよいという要望はあるものの、業者からは売上が十分確保できないため難しいと回答を貰っている。
G委員	現在、病院職員は売店よりも院外のコンビニ等を利用している状況はあるのか。
事務局	弁当等の品揃えという点で院外のスーパーやコンビニを利用している。
G委員	コンビニ等の整備に関しては、患者・職員がどの程度利用するのか、整備スペースがどれくらい確保できるのかの両面を踏まえて検討していく必要がある。
<b>次第3（2） ・新病院整備の方向性</b>	
事務局	<b>【説明】</b>
G委員	整備の方向性について、委員の皆様からご意見、ご質問を承りたいと思う。
D委員	<p>整備の方向性に対する意見、質問は以下の3つである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害対策について、建物の耐震性を耐震構造とするのか、免震構造とするのかで、建築費が大きく違ってくる。災害拠点病院としては、免震構造を目指していくことが基本的な考え方となる。今回、耐震化を目指していくことを挙げているが、免震構造を目指さない方針となっているのか確認したい。</li> <li>2. 感染症対策として出入口を明確に分ける点が明示されているのは良い点であるが、出入口だけでなく、部門間をつなぐ動線も、基本的な考え方を検討することは重要であり、一般患者・感染症患者の動線確保に関する考え方を明示したほうが良いと思われる。実際に、部門間を完全に切り離すことは困難で実現</li> </ol>

させようとする、その分面積が必要となるため、建築費にも大きな影響を及ぼす。

3. 職員が働きやすい病院づくりとして、具体例に外部委託業者向けの設備に関して言及している点は非常に良いと思う。病院運営は、病院職員と委託業者で成り立っているが、その委託業者向けの更衣室・休憩室などが整備できていないケースが多く見受けられる。また、病院建替え時に、委託業者の人数を少な目に見積もってしまい、十分なスペースを確保できないケースも見受けられるため、十分な人員数に対応できるように、スペース確保を検討してほしい。

G委員

以上3点について、事務局から意見はあるか。

事務局

1. 建物設備の耐震化について、基本構想段階においては、耐震構造・免震構造のどちらかに特定する考えではなく、基本計画を通して、費用面も含めて耐震構造・免震構造のどちらにするのか検討していく。
2. 感染症患者の動線について、出入口だけでなくそれ以降の動線についても基本計画の中で検討していく。
3. 委託業者のスペース確保については、病院職員数も含めて、余裕のあるスペース確保に向けた検討をしていく。

事務局

2. 感染症患者の動線について、当院は第二類感染症指定医療機関として比較的動線を分離しやすい構造となっている。例えば、検査機能については、2台あるCTのうち、1台をコロナ患者専用のCTとして運用している。また、当院ではもともと放射線室や手術室に陰圧室が整備されているなど設備面は充足している状況にある。

一方で、感染症病棟が別棟になっているため、人員配置が柔軟に対応できていない点など、再整備計画において、解消しなければならない課題もある。同じ建物内で結核及び二類感染症ともに対応できるような効率的な動線、配置が可能な再整備計画を検討していきたいと思っている。

以上のとおり、第二種感染症指定医療機関としての強み・経験を新病院へ継承する再整備事業に取り組んでいく。

G委員

1. 耐震化・免震化について、建築費もさることながら、免震構造を採用した場合、地面を非常に深く掘らなければならない、金沢市条例で定められる発掘調査の必要性が伴うことも考慮する必要がある。
2. 感染症患者の動線について、職員動線も含めて考えた場合、より円滑な運用ができるよう、これまでの経験も踏まえて、検討してほしいと思う。

E委員	<p>③地域の医療・介護機関との連携できる病院づくりに関して、確認させていただきたい。近年、地域においてニーズが高まっている在宅医療について、診療所として諸々問題と感じている部分がある。</p> <p>例えば、高齢患者の誤嚥性肺炎等への対応、介護保険施設に入所する医療を必要とする患者への対応、一時的な在宅介護困難者向けの入院対応など、今後も需要が高まっていくと考えられる。</p> <p>金沢市立病院で取り組んでいる地域包括ケア病棟や在宅療養後方支援病院としての役割において、診療所として非常に助かっている部分ではあるが、今後、回復期、慢性期における在宅医療など、幅広い領域の医療にも取り組んでいく考えか確認したい。</p>
事務局	<p>地域の中で、連携を深め、支えていくことが今後も重要になると考えている。当院は急性期を主体に置き、回復期、慢性期の患者に関しては他医療機関と連携して対応していくことを考えている。</p>
G委員	<p>このような問題に関しては、地域医療構想の推進委員会との話し合いで深めていくことが重要になってくると思うが、在宅復帰の高齢者が今後増加するなかで、在宅における回復期医療を必要とする患者への対応を、地域で支えていきたいというのがE委員の思いであると思う。</p>
F委員	<p>意見は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害時・緊急時に、職員だけでなく利用者にも理解しやすい院内サイン計画を検討してほしい。</li> <li>2. 在宅医療に関して、医療依存度は高いが自宅に帰りたいという患者を支えるという点で、訪問看護の提供を検討してはどうか。</li> <li>3. 慢性期患者のフォローアップという点で、療養相談機能として看護師を大いに活用していただけるような外来機能もあつたら良いのではないかと考えている。</li> <li>4. 医師や看護師、夜勤のある職員等に対し、十分な休息や仮眠、食事などをとれるようにする、「職員の健康」を重視する整備計画が、「良い病院」へ繋がり、人材の確保へ繋がっていくと考えている。</li> <li>5. 人員の確保については、今後、フルタイムの正規職員の雇用が難しくなっていく中で、限定的な時間でも働きたいと考える高齢者や障がい者を含めての雇用を推進していくことが重要になってくる。また、そのような職員のスペース確保や、環境整備も視野に入れて検討を進めることが重要と考える。</li> <li>6. 今後デジタル化が加速する中で、高齢者へのスマートフォンやタブレット端末の操作方法を教える人員の確保など、高齢者をはじめとした多様な利用者の利便性が向上するような取組みも検討してほしい。</li> </ol>

G委員

F委員から非常に建設的なご意見をいただいた。このご意見を踏まえて、事務局が現在の骨組みにいかに関与していくのかを期待したい。

B委員

意見は以下のとおりである。

1. 駐車場及び館内の動線について、分かりやすい院内表示を検討していただきたい。
2. 外来患者にとって待ち時間含めて外来診療に掛かる時間は短い方が良いと思う。順番の見える化で、ストレスを少しでも解消したり、待ち時間短縮ができる様な仕組みづくりを目指してほしい。
3. 人間ドックの受診者は居心地の良い空間を求めていると思うため、その様な空間づくりの工夫をしてもらいたい。
4. 入院患者は、広くゆったりできる空間や入院中の家族との交流を求めていることの他に、遠隔でご家族との交流できるように、インターネット環境の整備に関しても十分配慮して検討を進めてほしい。
5. 建物全体の雰囲気について、日中は太陽光を取り入れた明るい空間に加えて、夜も夜間照明の工夫などによる美しい空間づくりも重要になると思う。
6. 金沢市の特色ある病院づくりとして、金沢市の文化を押し出すデザインを随所に取り入れていただくと良いと思う。

A委員

市立の病院ならではの機能という点で、以下の意見がある。

1. 整備の方向性として様々な案があるが、重点的なものを絞って思い切った整備をしたらどうか。特に、新型コロナを経験した今、次に備えて、最先端の感染症対策機能を整備することを目指してはどうか。
2. 病院の持っている機能や専門職を活用し、市民向け講座や健康寿命延伸に繋がる取組みを実施してほしい。
3. 行政機能については、どのような機能を持たせるのか、本当に必要があるのかを、関係部署と連携を取って、十分に検証することが重要である。近隣には、福祉と健康の総合窓口として泉野福祉健康センターがあり、行政的な手続きも可能になっている。同じような機能を病院に持ってくるのは需要として見込めるのか、慎重な議論が必要ではないか。

G委員

A委員から金沢市立病院ならではの機能としてご意見いただいた。3. 福祉相談機能については、今後、医療ソーシャルワーカーを自治体病院に配置し、医療・福祉・介護を繋ぐことが重要なテーマとなっており、行政機能としての福祉相談機能ではなく、病院における福祉相談機能として整備することは意義がある取組みになると考えられる。

事務局

地域に開かれた病院という点で、現在はコロナの影響により活動できていないが、まちなかサロンを開催し、地域の高齢者向けの健康や栄養に関する情報交換の場を提供している。また、商店街と連携して、まち塾という形で地域の健康寿命延伸に向けた取組みを、まちづくりの一環で実施してきた。

近年、医療が必要な福祉対象者が増加しているように感じており、今後行政の手におえない様な人も出てくると思われる。この点に関して行政の方と連携して取り組んでいきたいと考えている。

### 次第3（2） ・新病院の規模、経営形態、整備手法

事務局

【説明】

G委員

規模、経営形態、整備手法について、委員の皆様からご意見、ご質問を承りたいと思う。

D委員

規模について、許可病床内にドック8床を含むとあるが、ドックは自由診療であるため、許可病床内に含める必要はないかと思う。許可病床 306 床にドック病床を含めるのかどうかは非常に大きなポイントであるため、考えを整理していただく必要があると思う。

経営形態について、現状公営企業法の全部適用で問題ないとのことであるが、比較相手として地方独立行政法人が挙げられる。地方独立行政法人化のメリットは総定員法の枠組みから外れることである。大学病院でも人員配置の問題で7対1を取れなかった病院が、地方独立行政法人化することにより定数の制限を受けず採用を行うことで7対1看護配置が可能になったという事例がある。今後数十人単位で増員して提供体制を充実させていくなれば、独立行政法人化してなければ市役所の定員による制限が掛かってくるため、この点を踏まえて検討する必要があると思われる。また、個人的には指定管理者については反対である。

整備手法について、近年、従来方式よりもECI方式を採用している事例が多く、ECI方式が好ましいと思われる。また近年、設計会社、施工会社の他に、中立的な立場から、建設発注プロセス、建設費用の評価・交渉等を実施するコンストラクション・マネジメント会社を別途委託することで、建設費用抑制に向けた取組みを実施する事例が多くなっている。とある病院においては、建築費用が2割程度抑制された事例もある。

事務局

ドック8床について、地域医療構想においても一般病床として登録しているため、今回の表現となっている。新病院での在り方は、今後検討していきたい。

経営形態について、本庁との関係が非常に重要になってくる点である。現在、本庁とは友好的な関係を築けており、職員数等に十分に

	<p>配慮してもらっているため、不自由はしていない。そのため、公営企業法の全部適用を継続したいと考えている。</p>
G委員	<p>とある病院の事例として、独立行政法人化して非常に苦境に立たされた事例もある。個人的には公営企業法の全部適用がよいと思っており、市役所と病院の信頼関係を維持していくことが重要だと思っている。</p>
事務局	<p>整備手法について、ECI方式が一般的である点、コンストラクション・マネジメント会社を入れいている事例が多いという点に関して、今後、改めてD委員にもご教授いただきながら、検討していきたい。</p>
F委員	<p>人員の確保について、様々な病院から、自治体の条例によりタイミング良く人員を採用することが難しいと聞いている。この点に関して、本庁と信頼関係を築いてどこまで柔軟に対応することができるのかが重要になってくると思う。石川県において金沢市は人口も多く他地域への影響力も大きいため、地域全体への波及性を意識して、様々な可能性に備えた準備を進めていくことが大切だと思う。</p> <p>また看護師について、近年離職率が高まっている状況にある。少子高齢化が進む中で、若手人材を育成するノウハウは持っていると思うが、それ以外に意欲ある高年齢の働き手の離職防止や活用方法等を検討して、貴院で継続して働くことのできる環境を整えてほしい。</p>
G委員	<p>看護協会の立場から、多くの患者と接してこられたF委員からの貴重なご意見であった。</p> <p>全部適用だからといって医療職を簡単に増やせない訳ではないことは補足させていただく。</p>
C委員	<p>アンケートについて、周辺住民の声が十分に反映されていると感じた。病院の暗いイメージを一新して、明るく自然光が豊かな建物になることを期待している。また職員が働きやすい環境が最も重要で、子育てと仕事が両立できる環境に配慮した病院になることに期待したい。</p> <p>更に金沢らしい地域産材を使用させていただいて、無機質な病院から温もりのある病院を実現してほしい。最後に、高齢者の憩いの場、災害の拠点にもなる本当に良い病院になる様に期待している。</p>
G委員	<p>本日、委員の皆様から多く出た良い意見を一度事務局で検討して、次回に繋がる計画を進めてほしいと思う。</p>

以上